



市財政の先行きに危機感

新体育館、布袋駅東、新ごみ処理施設など大型事業続きの上、いっせいに老朽化する公共施設の建て替えに備える基金の積み立てが進まず、年間8億円もの事業スクラップという事態に陥りました。市の財政見通しと市民サービスの維持・拡充に危機感を抱かざるをえません。

市議 **かけのまち子**

コロナ禍による市税収入の減少、大幅に増える新図書館の運営経費を見込んだ財政の短期見通しと、緊急性があるのに後回しになったままの、老人福祉センターや学校給食センターの建て替えの目途を財政面から質しました。

市当局は「市税収入は大幅に減少する見込みだが、普通交付税等の増加で一定程度カバーされる。布袋駅東複合公共施設の運営経費は、運営方針、方法等を決定する過程で具体的に試算するので、現段階では把握できていない」「現時点では建て替えの見通しは困難。財政負担の平準化をはかり、交付税算入のない地方債発行も検討する」などのあいまいな答弁でした。

高すぎる介護保険料の引き下げを

来年度から3年間の、第8期介護保険事業計画の策定中です。約8億円にも積みあがった介護準備基金を投入し高すぎる介護保険料を引き下げること、特養ホームの待機者数を明確にして待機ゼロの整備計画をつくること、「保険あって介護なし」になりかねない総合事業の緩和型A、住民主体型Bへの移行促進を止め、従前相当サービスを保障するよう求めました。

市当局の答弁は「基金は中長期的な見通しで取り崩しを検討。江南市の要介護3以上の特養待機者(在宅者)は46人。中長期を見据え過不足のない整備を検討。総合事業はより重要な役割を果たす」など、国の方針どおりのものでした。



一般質問



新型コロナの検査、医療体制強化を

保健所に市の職員1名を応援に出す体制があることは確認できました。「検査センターについては必要になったら県への要望を検討する」との危機感の感じられない答弁でした。

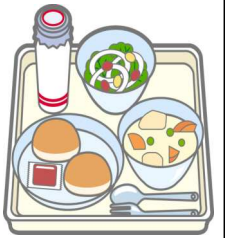
市議 **みわ陽子**

子どものインフルエンザワクチンに助成を

今年は昨年使用された量の12%増のワクチンが供給できる見通しがあるという資料を提示し、新型コロナウイルス対策としても高齢者への確実な接種と小2以下の子どもへの助成を要望しました。

給食センターの建て替えを早く

調理場内の管理基準は25℃以下が望ましいとされていますが、現在の給食センターは7、9月では25℃以下となる日がなく、過酷な職場であること、アレルギー対策の代替え提供ができていないことなどから早急に給食センター建て替えが必要であり、その計画を質しました。「今、土地の選定をすすめているが、土地の購入後給食の開始までには5,6年かかる」との答弁でした。



安全で学力保障のできる学校を

スクール・サポート・スタッフや委託清掃員の配置について質し、少人数学級実現を要望をしました。「9月23日からの各校への配置の見通しであること。少人数学級については国へ要望していく」との答弁でした。



同じような内容の請願、なぜか片方だけ不採択??

9月定例会には尾北地区教職員組合から「少人数学級の拡充を含めた定数改善計画の実施等を求める請願書」と新日本婦人の会江南支部から出された「国の責任による少人数学級の推進を求める請願」の2つの請願が出されました。

厚生文教委員会の請願審査では新日本婦人の会から「コロナ禍で3密を避けるため、また子ども達の学習に先生が目が届き、先生方の負担を減らすためにもぜひ少人数学級が必要である。」との意見陳述がなされました。

教職員組合の請願は全員賛成で採択されましたが、新日本婦人の会の請願は賛成2反対4で不採択となりました。

反対した議員の意見は「同じような内容の請願は2

つらい」「少人数学級を望んでいない保護者もいる」などの理由でした。

最終日の本会議で三輪議員が新日本婦人の会の請願を採択すべきと以下のように賛成討論しました。

「少人数学級を求める主旨の請願が2つ出たということは、それだけ少人数学級を求める声が大きくなっているということ。保護者、市民の立場から出された請願も採択して、意見書として出すべきである。

同じような内容で片方だけ反対するのは矛盾した態度といえる。

市民の願いを潰すことなく、この請願も採択すべきである」

請願反対の討論はありませんでした。

新日本婦人の会の請願

賛成 3(掛布、三輪、山議員)

反対 18

